



© UNHCR / Peter de Ruiter



© UNHCR/Antoine Tardy



© UNHCR/Gordon Welters



© UNHCR/Antoine Tardy

フィリッポ・グランディ国連難民高等弁務官 公開講演
難民の国際保護と
私たちにできることと教育の役割
国際機関への就職を目指す方への国連キャリアセミナーも実施

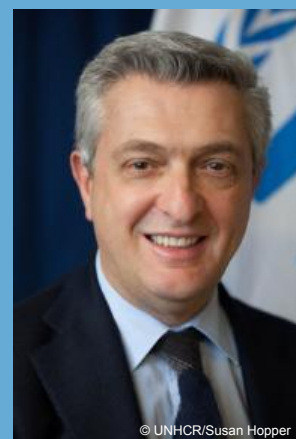
日時:2017年11月19日(日) 15:00~17:00(受付開始 14:30)
 会場:上智大学6号館(ソフィアタワー)1階 101教室

プログラム

- 15:00-15:05 開会の挨拶(上智大学長 曄道 佳明)
 - 15:05-15:35 講演(国連難民高等弁務官 フィリッポ・グランディ)
 - 15:35-16:05 難民高等教育事業学生・卒業生によるディスカッション
 - 16:05-16:25 質疑応答
 - 16:30-17:00 国連キャリアセミナー
- ※日英同時通訳あり

共催:国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所、国連UNHCR協会、外務省、
 難民高等教育事業(RHEP)パートナー大学:関西学院大学、青山学院大学、明治大学、津田塾大学、創価大学、
 上智大学、明治学院大学、聖心女子大学
 後援:文部科学省(調整中)

今日、難民・国内避難民の数は史上最多となり、国際社会の対応が議論されています。2016年に国連サミットで採択された「難民・移民のためのニューヨーク宣言」を受けた「CRRF(包括的難民支援枠組み)」は、より組織的・持続的な難民支援のあり方と、難民問題解決に向けた長期的な計画策定を目指しています。その中で教育は特に重視されている要素のひとつです。ここ日本では、10年前より大学が主体となり、UNHCRと共に難民高等教育事業(RHEP)を開始し、現在8大学が難民に高等教育の機会を提供しています。日本政府は、シリアにおける人道危機への対応として、150人のシリア人留学生の受け入れを2016年に表明し、その第一陣が日本で勉学に励んでいます。これらの取り組みをはじめとして、日本における支援のあり方について、難民保護における教育の観点から、UNHCRのトップを務めるフィリッポ・グランディ国連難民高等弁務官の講演を軸に、それぞれの立場で考えてみませんか。



© UNHCR/Susan Hopper

フィリッポ・グランディ
 国連難民高等弁務官



◀ 申し込み: <https://eipo.jp/sophia/seminars/> (参加無料、要事前申し込み)



UNHCR難民高等教育事業(RHEP)パートナー大学

